

香取遺産

Vol.114

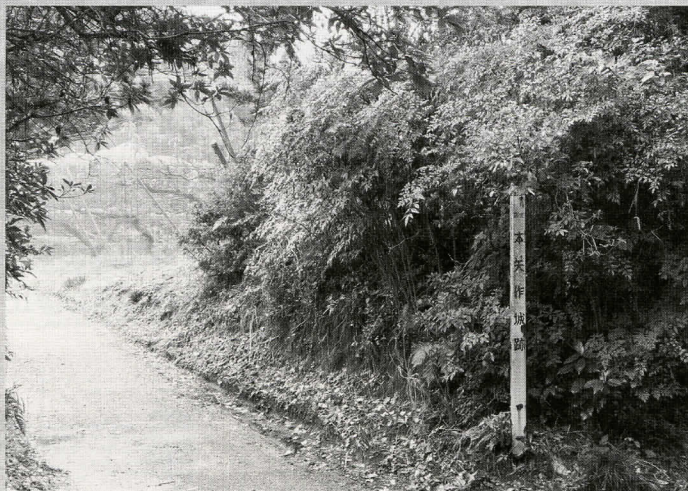
もとやはぎしゅうあと
本矢作城跡

こくぶん氏の居城跡

栄枯盛衰始まりの地

固生涯学習課

☎(50)1224



▲標柱が立つ本矢作城跡

本矢作城跡は、本矢作に所在する国分氏の最初の居城跡です。国分氏は、千葉介平常胤の五男胤通に始まります。胤通は治承4年(1180)、源頼朝の旗挙げの際に、父常胤とともに出陣して、軍功を挙げたという話もあります。軍功については、詳しく触れませんが、胤通が活躍した時代がわかります。本矢作城は、その胤通が築いたと伝えられており、年代は、鎌倉時代の初めころと考えられます。

た建物、つまり、城の中心であった場所と考えて良いでしょう。本矢作城は、鎌倉時代を通じて国分氏の居城でしたが、鎌倉時代の終りころ、胤通から数えて四代目になる胤長の二男泰胤が、現在の大崎の地に城を築き、本拠地を移したと伝えられています。今は「大崎城跡」として古くは「矢作古城跡」として知られている城跡がそれです。大崎城に本拠地を移した国分氏は、その後、領地を拡大し、戦国期には香取郡内で最も勢力を有する在地豪族に成長しました。勢力拡大の陰には、他の在地豪族や香取神宮との領地争いもあったのでしょうか。

国分氏は、天正18年(1590)の徳川家康による関東制覇の時に、他の千葉一族と同じく滅びました。

国分氏の栄枯盛衰の始まりの地である本矢作城跡は、昭和45年5月27日、市の史跡に指定されました。

跡地は字名を「タテ」といい、元々は「館」の字を使用していたようです。よく時代劇などで領主などを「お館様」と呼ぶ場面があるように、城主が通常居